

○事業所名	つつじ学園		
○保護者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 44
○従業者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 33
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一定期間保護者も一緒に療育に参加する親子通園部門があり、保護者と職員と一緒に児童に向き合うことで子どもに対する理解の高まりや保護者の子どもへの関わる力が備わっていくという場になっている。また保護者同士が交流できる機会も多くある。	児童だけでなく保護者にも向き合っていくことで保護者が安定した気持ちで児童に向き合えるよう支援している。また事業所での取り組みが保護者が子どもに接する際のヒントになるよう、職員と一緒に実践する機会を設けている。	多様化する保護者やご家庭全体のニーズに対しても関係機関と連携しながら対応していく。
2	児童と職員の関係性が1年間の取り組みの中でしっかり育まれており、そのことが保護者とも共有できている。	児童個々の特性について、心理や言語等の専門職も交えて共有し、その個にあった過ごしを日々考え提供している。	今後も研修等を通して、職員の特性理解と支援のスキルを高めていく。
3	福祉避難所でもあるため、災害対応という面で高い意識を持っており、福祉避難所訓練も含めた訓練を定期的に行っている。行政や隣接の中学校とも必要な共有や連携が図れている。	災害時の避難に配慮を要する児童がいることについて隣接中学校とも共有しており、津波避難所ともなっている中学校において当事業所用のスペースを確保している。	地域の方々にも当事業所の存在をより知っていただき、いざという時にご理解とご協力を得られるよう関係を構築していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子供達との交流の機会が少ない。	以前は近隣の保育園との定期的な交流を行っていたが、コロナ禍を機にその機会が中断したままとなっている。コロナ禍以降も様々な感染症が流行ることがあり、感染に弱い児もいることなどもあり、再開に向けた動きは取られていなかった。	交流再開については保育園からも前向きなご意見をいただいているため、感染症対策や児童個々の交流で期待される効果や影響、適したタイミングなども検討した上で、事業所内や保育年との協議をしていく。
2	事業所から外部への情報発信	ホームページで定期的に日々の取り組み等の発信をしているが、保護者を外部にその存在が十分には知られておらず、ページのデザインや内容の魅力度という点にも課題があるかもしれない。	情報の発信の在り方について、事業所内だけでなく法人全体で協議していく。
3			